





ねむるへや

まち全体を大きな家として捉え、生活のうち一番パーソナルな行為である「眠る」という行為のためにある部屋を提案します。

現代の都市生活は超個人主義的です。それぞれが自分の部屋で食事をつくり、お風呂を焚き、部屋を冷やしたり温めたりします。私たちは、それは限りある資源やエネルギーを過剰に消費してしまっている状態なのではないかと考えました。そこで、生活の大半をまちに持ち出し、公共の施設やサービスをみんなで共有する暮らしを描くことにします。そのとき、部屋は眠るためのみに存在し始めます。

眠るという行為に特化した部屋は生活の場としては未完成であり、まちに生活を拡張していくことで成立します。このワンルームで生活機能を満たすのではなく、24 m²の全てを眠るための空間とすることが、近未来的な豊かさであると私たちは考えました。

これは、小さな部屋を取り巻く、大きな大きな暮らしです。



達成したい SDGs の「目標」



07 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

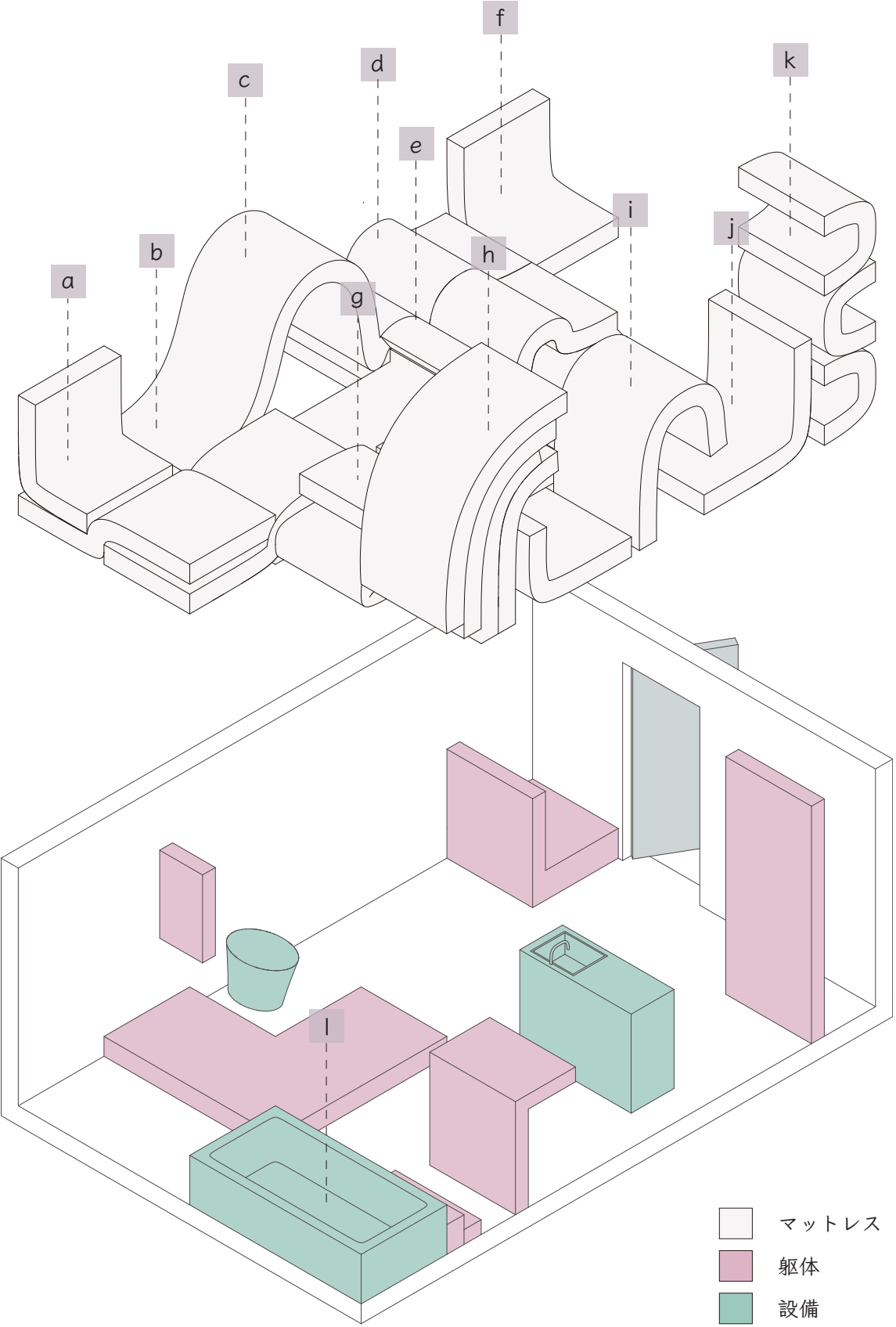


11 住み続けられるまちづくりを

私たちはこの計画を通して、SDGs の 17 の目標のうち上記の 2 つの目標にアプローチしています。本来、個人の生活と都市は繋がっている方が環境に良いとされています。しかし、個人主義と環境問題は相性が良くありません。個人の生活の中で重複している部分を認識させ、共有することができれば、ちいさなワンルームからでも生活を変え、ひいては環境をよりよくすることができるのではないかと考えました。

全体構成

この部屋にあるエレメントは全て、マットレスを配置するためのガイドとして機能します。都市に暮らすとき、これらは、機能を果たすモノではなくただのボリュームになります。これに沿って置かれたマットレスは自由にふるまいはじめ、その隙間に様々な眠る生活の断片が見え隠れしていきます。



a

寝落ちだ寝



b

ごろ寝



c

浮きたい寝



d

隠れたい寝



e

挟まっている寝



f

帰ってすぐ寝



g

うつ伏せ寝



h

挟まっているモノ



i

就寝前足湯



j

座寝



k

積み上がるモノ



l

風呂寝

